

平成26年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	第1回葛飾区行政評価委員会
開催日時	平成26年7月3日(木) 午後1時30分から3時30分
開催場所	葛飾区役所新館5階 庁議室
出席者	【委員14人】 大石会長、足達委員、江川委員、大山委員、金子委員、柴田委員、村上委員、望月委員、上原委員、佐々木委員、長谷委員、西江委員、町田委員、三宅委員 【区側10人】 区長、事務局(政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員7人)

会議概要

1 開会

2 委員委嘱

(区長より各委員に行政評価委員会を委嘱)

3 区長挨拶

行政評価制度は平成14年度に導入し、今年で13年目になる。当初は、区の事業全体をチェックしていただいていたが、より一つひとつの事業をきちんとチェックしたいという声があり、見直しを続けながら、効率的な行政運営を着実に実現してきた。今年は6事務事業と事業の数は少ないが、一つひとつの事業を皆さんのご意見をいただいてきちんとチェックして進めていきたい。また、いただいたご意見は、その他の事業にも反映していきたい。

4 要綱説明

(事務局より葛飾区行政評価委員会設置要綱について説明)

5 会長挨拶

6 委員紹介

(会長より委員の名前、選出区分、所属分科会の紹介、事務局職員紹介、政策経営部長挨拶)

7 行政評価委員会の運営方法について

(会議の公開、会議の記録の公開、委員の名簿の公開、他の分科会の審議への関与方法、今後の日程について)

A委員 事務局の自己紹介をしてもらったが、名簿があればほしい。例年、所管課長の事業説明の時間が短く、理解するのに時間がかかるので、時間を増やしてほしい。

会長 私もそう感じており、同様の要望を事務局にしたところである。今回一つひとつの事業にかけられる時間が増えているので、対応可能かと考える。

8 行政評価委員会の概要について

(事務局より行政評価委員会の概要について説明した後、質疑応答)

会長 人件費の部分で再任用と再雇用の職員について記載があるが、どのような違いがあるのか。

事務局 1週間の勤務日数や1日の勤務時間が異なる。定年前に退職すると再雇用になったり、定年退職後の再任用としての期間が満了すると、再雇用となる。わかりにくいので資料をご用意したい。

B委員 基本評価は所管課長、重点評価は所管部長、その中で一部のものは行政評価委員会に出てきて評価を受けるが、区議会に提出されたものは全て区議会による評価を受けているのか。また、行政評価委員会から出された答申は区議会でもう扱われるのか。

事務局 基本的に、行政評価委員会は独立した機関であるため、答申は区長へ直接なされるものであり、そこに区議会の意見が直接介入するということはない。一方、区議会に報告した基本評価、重点評価については、評価表の中から事業の展開について意見出されることもあり、内容は確認していただいている。

A委員 区議会でもチェックはしているとは思いますが、全体の数が多くチェックしきれないのではないかと。行政評価委員会でもう少し数を増やして評価してもいいと思う。

会長 区長挨拶にもあったとおり、10年以上委員会の運営を行ってきた中で、当初は多くの事務事業を評価して廃止縮小を進め、ある時は施策の評価を行ってきた。今回は評価対象の数は減少しているが、一つひとつの事業にかける時間を増やし、所管課と議論していく中で改善するという形で行う予定であり、これまで以上に

中身の濃い議論をする狙いがある。

C委員 区議会議員に聞いてみると、議員によって関心の高い分野があるため、その部分を中心にしているとのことである。それぞれの得意分野で内容を確認してもらえているのだから、私はそれで良いと思う。

次回以降の分科会の資料はなぜ用意されていないのか。準備ができていないなら配るべきである。

事務局 現段階で資料は準備できていない。分科会までに準備して送付する予定である。

D委員 昨年の委員会でも、事前に見せてもらって勉強したいと発言した。資料が多く理解するのに時間がかかるので、事前に目を通したい。

C委員 郵送料もコストである。その点もコスト意識を持って、1回前の会議のときに渡すなどの工夫をしてほしい。それから、業務量クロス表は、各所管課長が管理しているものなのか。

事務局 各課の業務量を管理する台帳があり、そこで管理している。

C委員 どの仕事に何分かけたなどの時間の算出は難しいであろうし、業務の性質上、どこまで正確に出されているのかがよくわからない。

事務局 この表自体が正確かということよりも、評価する事業の人件費が0.7人分だとした場合に、一つひとつの事業にはおおよそコストがこれだけかかっているという部分を見ていただきたい。

B委員 我々のような民間では、PDCAのサイクル後にもう一度チェックを行う。本委員会においても、過去に行った評価がその後どうなったか等、再評価を行うことが必要と考える。我々の答申はあくまで提言だから、それが実現されたかまだ実現に至っていないのかは大きな問題ではないが、再度その事業を見返すことが大事なのではないか。

事務局 昨年度いただいた答申に対する今後の区の実施については、2月に行った第3回の全体会において報告した。

C委員 答申を出してから政策に反映するまでには、最短でどれくらいかかるのか。

事務局 9月に答申をいただき、その後に予算要求、予算編成というスケジュールのため、内容によっては最短で次年度予算に反映できるものもある。

C委員 答申のどの部分の実現されてどの部分の実現に至らなかったの

かを知りたい。広報等にも出ているのかもしれないが、委員に何かしらの方法で教えてほしい。

事務局 何らかの方法でご報告できるように考えていきたい。

E 委員 この委員会は1年ごとに完結するものなのか。それとも、完結しない長期間にわたる議題について、ひとまず1年間委員を務めるといったものなのか。要綱を見る限りでは委員委嘱の期間が1年となっているが、皆さんが前年度の話をしていたりするのでわからない。

事務局 委員会の議題としては、検討していただいて答申をいただくまでの流れは1年で完結するものである。ただ、答申をいただいた区が、その答申を元に事業をどのように展開していくかという点においては、次年度に反映できるものもあれば長期にわたるものもある。そうしたその後の取り組み状況について、委員の皆様にかしらの方法でお知らせできないかという話である。

F 委員 自由に議論をしてしまっているので交通整理が必要である。挙手制で発言をするのが基本ではないか。それから、1つ質問がある。事業ヒアリングにおける視察は、今までも行っていたのか。

事務局 今までも行っていた。

会長 視察は非常に重要なことである。机上での議論だけでなく、実際に現場を見に行くことで具体的なイメージを持って議論を行うことができる。

9 分科会別打ち合わせ

(分科会ごとに分かれて、自己紹介と日程の確認)

10 その他

(事務局より事務連絡)

11 閉会